

2016 年度笹川スポーツ研究助成の総評

選考委員長 山口 泰雄

2011 年度より、人文・社会科学領域の研究を支援する「笹川スポーツ研究助成」の選考委員長を務めております。科学研究に関わる助成制度としては、日本学術振興会の科学研究費助成が筆頭となりますが、その他民間団体等による研究助成では自然科学領域の研究を対象とするものが多く、人文・社会科学領域を専門とする研究者や政策担当者、スポーツ振興関係者の皆様には、ぜひ本助成制度を活用していただきたいと思います。

初年度から「スポーツ政策」「スポーツとまちづくり」「子ども・青少年スポーツ振興」に関する研究を募集しており、2012 年度には 39 歳以下の若手研究者を対象とする「奨励研究」枠を新設し、次世代を担う若手研究者の育成に向けた取り組みも開始しました。

今回で 6 回目を迎えた 2016 年度笹川スポーツ研究助成の募集では、「一般研究」93 件、「奨励研究」69 件、全体で 162 件の申請がありました。申請された研究については、3 つのテーマごとに複数の選考部会委員が、「①研究課題の的確性」「②研究計画の明瞭性」「③研究方法の妥当性」「④研究内容の独創性」「⑤研究成果の波及効果」の 5 つの観点から厳正なる評価を行いました。そして、選考部会による評価結果を選考委員会に諮り、2016 年度笹川スポーツ研究助成として、「一般研究」19 件、「奨励研究」18 件、計 37 件の研究が採択されました。採択率は「一般研究」が 20.4%、「奨励研究」が 26.1%であり、若手研究者の育成に力を入れていることがご理解いただけるかと思えます。

2016 年度笹川スポーツ研究助成の採択研究の特徴としては、オリンピックムーブメントに関する歴史的研究をはじめ、一流指導者のキャリア形成過程、スポーツスタジアムの来訪促進要因、学校運動部活動の人間関係など、時代のニーズを反映した多様なテーマが見られました。また、過去に笹川スポーツ研究助成を活用して得た研究成果に基づき、さらに内容を発展させた研究もみられました。本誌は 2016 年度採択研究者 37 名の貴重な研究成果を報告書としてまとめたものです。大変示唆に富んだ内容であり、スポーツに関わる多くの皆様に、今後のスポーツ振興を考える上での資料として各分野でご活用いただきたいと思います。

最後に、これまでのすべての採択研究者の皆様には、研究成果の国内外での発表、学会誌・研究誌への積極的な投稿をお願いしたいと思います。研究活動で得た知見が研究者や行政担当者、スポーツ振興関係者の目に触れ、そして議論が生まれることによって初めて、社会貢献に繋がるからです。2017 年度笹川スポーツ研究助成の募集では、175 件の申請に対して 48 件の採択が決定しました。皆様の今後の研究活動により、これからのスポーツ政策やスポーツ振興に寄与する研究成果が得られることを大いに願っております。